

平成 26 年度第二期第 4 回（一社）日本生物物理学会理事会議事録

日時：2014 年 12 月 6 日（土）13：00～17：00

場所：新大阪丸ビル本館 5 階 510 号室

出席者：理事総数 17 名 出席理事 14 名（代表理事を含む。）

代表理事（会長）	七田 芳則	理事（副会長）	有坂 文雄
理事（副会長）	船津 高志	理事	石森 浩一郎
理事	伊東 大輔	理事	今元 泰
理事	金城 政孝	理事	佐甲 靖志
理事	高橋 聡	理事	寺北 明久
理事	永井 健治	理事	根岸 瑠美
理事	林 久美子	理事	村上 緑

監事総数 2 名 出席監事 2 名

監事	片岡 幹雄
監事	難波 啓一

オブザーバー：

BIOPHYSICS 編集委員長 石渡 信一  
平成 27・28 年度会長候補 中村 春木  
平成 27 年度年会実行委員長代理 内橋 貴之

陪席者：

学会本部事務局 垣内 香里  
神瀬 麻里子

議長：代表理事（会長） 七田 芳則

議事録作成者： 理事 伊東 大輔

報告および審議事項：

報告事項：

1. 平成 26 年度年会準備状況（石森・金城）：報 1
2. 平成 27 年度年会準備状況（内橋）：報 2
3. 年会会場での撮影禁止の徹底について（七田）：資料なし
4. 出版委員会報告（船津）：報 4
5. 男女共同参画・若手支援委員会報告（有坂）：報 5
6. 男女共同参画学協会連絡会報告（有坂）：資料なし
7. IUPAB・ABA 関連報告（永井）：報 7
8. 生物科学学会連合連絡会報告（有坂）：報 8
9. 地区報告（七田）：資料なし
10. 大学等評価委員候補者推薦について（七田）：報 10

#### 審議事項：

1. 次期会誌編集委員長および平成 27・28 年度会誌編集委員の選出（船津）：議 1
  2. 平成 27 年度分野別専門委員の選出（船津）：議 2
  3. 平成 27 年度事業計画（案）（七田）：議 3
  4. 平成 27 年度予算（案）（佐甲・高橋）：議 4
  5. 平成 27・28 年度理事候補について（七田・中村）：資料なし
  6. 年会での代理発表について（七田）：議 6
  7. 年会での企業セッションについて（七田）：資料なし
  8. 会員総会ワークショップのテーマについて（七田、中村）
  9. 年会における国際交流促進について（林）：当日配布
  10. 啓蒙関連議題（啓蒙グッズ・一家に 1 枚）（林）：議 9
  11. 財団助成金の学会推薦について（船津）：議 10
  12. 第 4 回 BIOPHYSICS 論文賞の募集および選考委員の選出について（七田）：議 11
  13. 「生物物理」投稿規定の改定について（船津）：議 12
- その他、休会申請の適用事由について（七田）：資料なし

#### 議事の経過の要領およびその結果：

理事会の審議に先立ち、会長より、定足数を満たしており、定款第六章第三十二条の規定により理事会が成立していることが報告された。会長が議長に就き、開会を宣言し審議に入った。

#### 報告事項：

1. 平成 26 年度年会報告（石森・金城）：報 1

石森年会担当理事より、平成 26 年度札幌年会の実施報告があった。年会は平成 26 年 9 月 25 日～27 日の間、札幌コンベンションセンターにて開催され、9 月 28 日には北海道大学国際交流会館にて市民講演会が開催された。収支については、最終的に 24 万程度の黒字となった。懇親会時に会場が騒がしくスピーチ等が聞きづらかった事があり、次回の金沢年会への反省点として引き継ぐ事を確認した。

2. 平成 27 年度年会準備状況（内橋）：報 2

内橋年会実行委員長代理より、平成 27 年度金沢年会の準備状況について報告があった。まず予算案についての報告があり、予稿アプリは導入しない方針であることが報告された。次にスケジュール関連についての報告があった。プログラム編成について、シンポジウム 26 件、一般口頭発表 508 件、それ以外にポスター発表を予定していることが報告された。一般口頭発表の他に、比較的発表者の多い分野から座長 2～3 名を依頼して、特定のテーマでオーガナイズドセッションを行ってもらおう。総会について、前回の理事会での指摘を受け、総会終了からセッションの開始時間までの間隔を 20 分確保し、そのために 2 日目の開始時間を 8:50 からに変更した。市民講演会について、9 月 12 日に金沢商工会議場に

て大阪大学の永井健治教授の講演を予定していることが報告された。

続いて新企画について説明があった。企業セッションの開設について実行委員会で検討した結果、希望する展示企業には一般講演の関連セッションで口頭発表していただく案が出た。この案件については議 7 にて議論する。また、企業とポスドク・学生との就職マッチングの場を設ける事を企画している。研究員の求人についても年会中に情報を開示できるようにする事を企画している。求人だけでなく求職についても企画してほしいという意見もあった。

予稿集についての質問があり、金沢年会ではアプリを廃止する代わりにダウンロード可能な pdf で代用する方針であることが説明された。アプリに関しては、札幌年会では全参加者数の 1/3 程度のインストールがあったというデータがあり、また中西印刷が安価なアプリの製作に意欲を示していることもあり、予算全体を見ながら再度検討する事となった。

### 3. 年会会場での撮影禁止の徹底について（七田）：資料なし

七田会長から、年会会場での撮影禁止の徹底についての説明があった。札幌年会のシンポジウム会場で、スマートフォンで発表スライドを撮影している人がいたと報告を受けた。来年の金沢年会からは、もう少し分かりやすい形で撮影禁止・録音禁止が掲示できるように工夫してほしいとの依頼がされた。

### 4. 出版委員会報告（船津）：報 4

船津出版委員長より、出版委員会の報告があった。昨年度に引き続き科研費に応募したことが報告された。

次に、原田会誌編集委員長の代理で船津出版委員長より会誌編集委員会の報告があった。まず「タンパク質立体構造散歩」の記事募集を行ったことが報告された。学会員から「タンパク質立体構造散歩」を復活して欲しいという声があり、企画を再開することにした。約 10 名の方に原稿執筆を依頼し、また一般募集も行った。次に、会誌編集委員会の構成員選考規程を変更したことが報告された。まず 1 点目は、法人化に伴い名称変更のあった委員会の文言を修正した。2 点目は、副編集委員長は編集委員長が指名し、理事会で承認を得るという手続きについて明文化した。続いて、学会のロゴが変更になったことに伴い、J-STAGE の邦文誌と BIOPHYSICS のヘッダーを変更したことが報告された。

石渡 BIOPHYSICS 編集委員長より、BIOPHYSICS 投稿状況について報告があった。2014 年の投稿数が年会時は 16 編だったが、28 編まで増加した。12 月 7 日に BIOPHYSICS 編集委員会の開催を予定している。PubMed への登録について、過去に 50 編あれば良いということが判明した。ただしこの条件として、論文を XML 化して PubMed Central に載せることが必要であるとのことであった。この費用を「今年度」の科研費から支払っていただきたいとのことであった。XML 化に伴う費用について、理事会で審議した結果、平成 26 年度科研費から支出することが承認された。

由良 HP 編集委員長の代理で船津出版委員長より、HP 編集委員会の活動報告があった。次期編集委員候補として、名古屋大学の小池亮太郎氏が挙がっており、理事会で承認を得た。

### 5. 男女共同参画・若手支援委員会報告（有坂）：報 5

有坂男女共同参画・若手支援委員長から委員会の報告があった。まず若手奨励賞の選考過程の報告があった。今回応募が 32 名となり、昨年より 11 名減となったので、周囲の学生等に積極的な応募を呼びかけるようアナウンスされた。次に、招待講演者の中に応募要件（演題の筆頭著者である者）を満たしていなかった方がいたため、第 2 次審査はこの方を除く 9 名を対象として行ったことが報告された。対策として、審査員に審査の規定を渡しチェックしていただくことにする。委員会にて若手奨励賞担当委員および男女若手委員会副委員長を設けることが提案され、承認された。また、審査員の選考方法について、審査員を終えた方から 3 名推薦していただき、その中から委員会で選出することを決定した。

続いて男女共同参画に関して、8 月 8 日に女子中高生の夏の学校が開催され、生物物理学会としてブース出展したことが報告された。年会のシンポジウムについて、今年は名古屋大学の坂内氏に子育て支援・ワークライフバランスについて講演していただき、その後グループディスカッションを実施した。このシンポジウムのアンケートを解析した結果、参加者 72 名のうち 56 名からディスカッション形式が良かったという回答が得られたため、次回の金沢年会では自由討論会を実施してはどうかという意見が出た。ポストク問題やキャリア形成に関する話題を中心に、金沢年会では自由討論会を実施したいとの説明がされた。この件について、年会実行委員会で会場設営について検討することとなった。

#### 6. 男女共同参画学協会連絡会報告（有坂）：資料なし

有坂男女共同参画・若手支援委員長から、男女共同参画学協会連絡会の活動状況について報告があった。10 月 4 日に本郷にてシンポジウムが開催され、有坂委員長が出席しポスターを出展した。これまで 3 回ほど大規模アンケートを行っているが、データを統一しようということになり、委員会を復活させ規則等を手直したという現状であることが報告された。

#### 7. IUPAB・ABA 関連報告（永井）：報 7

永井国際担当理事から、ABA2015@Hangzhou のスピーカー推薦について報告があった。ABA2015 主催者より基調講演、セッション座長、セッションスピーカー推薦の依頼が来たため、七田会長と相談した上で推薦案を作成したことが報告された。

続いて IUPAB タスクフォースについての報告があった。これまでに 1 稿が完成しており、近日中に 2 稿目・3 稿目が入稿される予定であることが報告された。

#### 8. 生物科学学会連合連絡会報告（有坂）：報 8

有坂生科連担当理事から 10 月 11 日に開催された第 10 回定例会議の報告があった（船津副会長が代理で出席）。ポストク問題 WG の小林氏から「提案→＜重要なお願い＞ポストクの雇用促進と研究者教育の改善を！」の案が送られ、定例会議で検討されたが結論に至らず、内容についてさらに検討することとなった。理事会で意見等があれば有坂理事まで知らせてほしいとのことであった。

#### 9. 地区報告（七田）：資料なし

七田会長から地区報告があった。東北支部、中部支部、中国四国支部、九州支部から交付金の申請を受け、それぞれ 6 万円を交付したことが報告された。

## 10. 大学等評価委員候補者推薦について（七田）：報 10

七田会長から大学等評価委員候補者推薦について報告があった。大学評価・学位授与機構の依頼を受けて、候補者 7 名を推薦したことが報告された。

### 議題：

#### 1. 次期会誌編集委員長および平成 27・28 年度会誌編集委員の選出（船津）：議 1

船津出版委員長より、次期会誌編集委員長および平成 27・28 年度会誌編集委員の選出について説明があった。まず規定に従い出版委員会に投票を依頼し候補者を絞り込んだ。理事会で投票を行った結果、神取秀樹氏（名工大）→船津高志氏（東大）→寺北明久氏（大阪市大）の順位付けがされ、出版委員会がこの順に交渉して次期会誌編集委員長を決定する。会誌編集委員の候補者は織田昌幸氏（京都府大）、岡浩太郎氏（慶應大）、前島一博氏（遺伝研）、立野勝巳氏（九工大）、大浪修一氏（理研）、淵上壮太郎氏（横浜市大）の 6 名が選出され、理事会で承認した。

#### 2. 平成 27 年度分野別専門委員の選出（船津）：議 2

船津出版委員長より、平成 27 年度分野別専門委員の選出について説明があった。年会参加登録時における分野別専門委員の推薦結果、資料議 2 の委員候補が選出され、理事会で委員が承認された。

#### 3. 平成 27 年度事業計画（案）（七田）：議 3

七田会長より平成 27 年度事業計画案について説明があった。理事会で審議した結果、計画案が承認された。事業年度が始まるまで変更可能なので、新たな事業計画がある場合は連絡いただきたいとのことであった。

#### 4. 平成 27 年度予算（案）（佐甲・高橋）：議 4

佐甲経理担当理事より、平成 27 年度収支予算書原案が提示され、内容について説明があった。経常収益は 51,701,350 円、経常費用は 48,694,760 円の見込みとなった。現時点では 300 万円の黒字予算となっているが、今回提出された金沢年会の予算案は、本予算案に反映されていないため、次回理事会までに修正し、予算案の精度を高めていく。

#### 5. 平成 27・28 年度理事候補について（七田・中村）：資料なし

七田会長・中村次期会長候補より、平成 27・28 年度理事候補についての発議があった。定款第 20 条には「理事及び監事は、総会の決議によって選任する」とあり、社員総会で承認されれば会員外からも理事を選ぶことが可能である。そこで将来計画担当として企業の方にも理事に加わっていただき、新しい事業や企業と大学のマッチング等の役割を担っていただくことが学会にとって良いのではないかと提案がされた。議論の結果、次回理事会までに細則の変更案をメールで提示し、次回理事会で審議した上で企業の方を理事候補とさせていただくことの是非を審議することとなった。

6. 年会での代理発表について（七田）：**議 6**

七田会長より、年会の代理発表についての発議があった。年会で毎年問い合わせを受ける代理発表について、代理発表をする者は参加証の譲り受けはできないとすることに決定し、さらに発表著者順の入れ替えは認めないという文言を追加する。この代理発表に関する覚書は公開せず、問い合わせを受けた時にだけ案内する。

7. 年会での企業セッションについて（七田）：**資料なし**

七田会長より、年会での企業セッションについての発議があった。内橋年会実行委員長代理より、企業の一般口演またはポスター発表を加えることを検討しているとの説明があったが、一般発表は会員であることが条件となっているため、非会員の企業の方を一般発表に加えるのは難しいという結論になった。企業セッションを開催する場合はモーニングセッションまたはナイトセッションのような形でやっていただくのが望ましい。

8. 会員総会ワークショップのテーマについて（七田、中村）

中村次期会長候補から、金沢年会で実施予定の会員総会ワークショップのテーマについての提案があった。SACLA を利用した研究成果が NATURE に発表された事を受け、SACLA の技術的な面、構造解析、計算科学の3つを組み合わせた内容にしてはどうかという提案であった。特別な反対意見はなく、時間・内容等について引き続き詳細を検討していくこととなった。

9. 年会における国際交流促進について（林）：**当日配布**

林理事より、年会における国際交流促進について、学会として旅費支援を行うことで海外（特にアジア）からの演題を募ってはどうかという提案があった。このような国際交流のための費用（所謂トラベルアワード）を支出するかどうかについては引き続き検討することとなった。

10. 啓蒙関連議題（啓蒙グッズ・一家に1枚）（林）：**議 9**

林啓蒙担当理事より、啓蒙関連議題について発議があった。啓蒙グッズの無償・有償配付の情報について、「一家に1枚」と統合しページにリンクしてはどうかという案が提示された。詳細については由良 HP 編集委員長と相談することにし、HP に載せることは理事会で了承を得た。続いて一家に1枚ポスター英語版の制作について発議があった。英語版制作に関する英文校正費（6万円程度）および印刷費（1万円）を啓蒙事業費10万円から支出したいとの発議があり、審議の結果理事会で承認を得た。

11. 財団助成金の学会推薦について（船津）：**議 10**

船津理事から、学会推薦の必要な財団助成金の取扱について発議があった。財団からの研究助成金のうち、学会から候補者推薦ができるものについて、学会が設定した締切までに応募がなかった場合、ホームページ等で締切延長をアナウンスし、また周り

の研究者に声掛けすることで対応することとなった。

12. 第4回 BIOPHYSICS 論文賞の募集および選考委員の選出について（七田）：議11  
七田会長より、第4回 BIOPHYSICS 論文賞の募集および選考委員の選出について説明があった。BIOPHYSICS 論文賞の推薦依頼の変更文面案、選考委員会規定変更案が提示され、理事会で承認を得た。続いて第4回 BIOPHYSICS 論文賞選考委員候補者についても同様に理事会で承認を得た。

13. 「生物物理」投稿規定の改定について（船津）：議12  
原田邦文誌編集委員長の代理で船津出版委員長より、「生物物理」投稿規定の改定についての説明があった。投稿規定中に「学術的な内容を含む記事の提案および投稿においては・・・」という下線部の文言を追加することが提案された。この件について理事会で承認を得た。

その他、休会申請の適用事由について（七田）：資料なし

七田会長から休会申請の適用事由について説明があった。理事会で審議した結果、休会制度の利用について、学会 HP に記載の通り、「海外留学、海外勤務、あるいは病気療養や出産・育児などのため、一時的に学会活動ができない場合」とするという結論に至った。

#### 連絡事項：

1. 次回理事会日程について（七田）  
平成26年度第二期第5回理事会  
2015年2月28日（土）13時～ 場所：キャンパスプラザ京都  
（11時より出版委員会、男女共同参画・若手支援委員会開催）

その他の発議を求めたところ、格別なしと認められたので、議長は17:00に閉会を宣言して散会した。

上記の議決を明確にするため、定款第六章第三十三条の規定によりこの議事録を作成し、代表理事及び監事が次に記名押印する。

平成27年2月3日

一般社団法人 日本生物物理学会 平成26年度第二期第4回理事会

代表理事	七 田 芳 則	(印)
監事	片 岡 幹 雄	(印)
監事	難 波 啓 一	(印)